

病気や虫に負けないからだづくり



ローラーで上からなでるように押さえつけて負荷を与え、強い苗をつくる。



田植え前に水田に出すことで、寒さに強い苗になる。

一般的な苗づくりは、肥料がたっぷりある状態で、あたたかいハウスの中で苗を育てます。“箱入り娘”で育てられた一般的な苗は、田植え後に初めて、水をはった田んぼの中に入ります。急激な環境の変化に耐えられず、ストレスいっぱいの状態に！病気にも弱くなってしまうので、農業で病気や虫を防除しなければなりません。

一方、冬期湛水不耕起移植栽培の苗はローラーで上から押さえつけて負荷を与えます。さらに、苗のうから、水田に出して外気の寒さや水をはった田んぼの環境に慣れさせます。そのため、田植え直後のストレスが少なく、冷害にも強く、病気や虫に負けない強い稲に育ちます。だから、農薬が必要ありません。

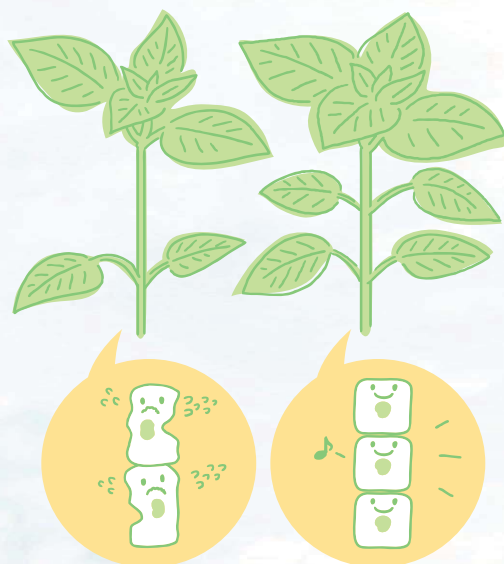
苗づくりは土づくり

畑でつくる作物も、「作物が自然に生長する環境を整えること」、「甘やかし過ぎて育てないこと」が大切。そして、畑の作物の苗づくりは、「土を育てる」ことが重要なポイント。

いい苗づくりはいい土づくり。いい土とは、生態系豊かで、いい微生物がたくさんいる土です。肥料や農薬が苗を育てるものではありません。根元の環境がいい微生物で支えられていると健康で丈夫な苗が育つのです。さらに、種もEMで処理することで活性化することができます。

健全に育った苗は節が短く、細胞もしっかりしているため、風が吹いても折れることのない、強さがあります。

いい微生物の集まりであるEMを上手に活用して、元気な苗を作りましょう！



化学肥料で育った苗は細胞が大きくなりすぎて弱い

自然に育った苗は細胞がしっかりしていて強い

化学肥料で育った苗と自然に育った苗の違い

「苗半作」。三つ子の魂百まで

「苗半作（なえはんさく）」という言葉をご存知ですか？

農業に昔から伝わる言葉で、「苗を上手につくれば、作物栽培は半分は成功したようなもの」という意味です。

苗が健康に育つことで、その後も病気や害虫に負けずに大きくなり、おいしい農作物が収穫できます。



「（人が）生長させる」か「（作物が）生長する」か

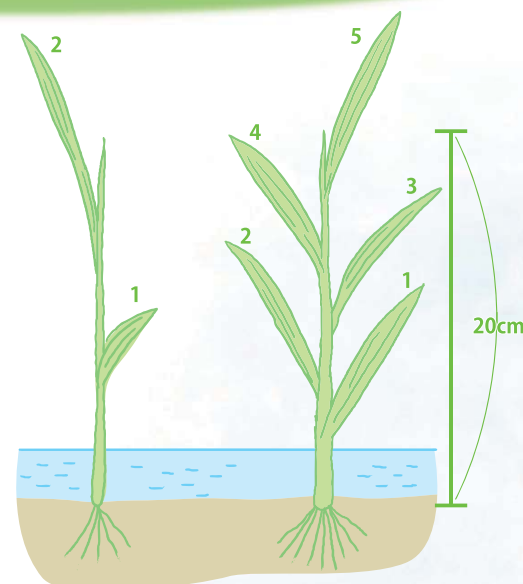
例えば、稲作。種もみから収穫まで農薬や化学肥料を一切使用せず、冬にも田んぼに水を溜め、田んぼを一切耕さない栽培では、一般的な苗よりも育てる期間が約2倍かかります。なぜ2倍もの時間がかかるのでしょうか？

田植え機に適した苗の大きさは約20cm。20cmの苗に生長させるために、一般的な苗づくりでは化学肥料を与え、ハウスの中で約30日間かけて育てます。苗は自然の状態では二葉で4cmにしか生長しませんが、一般的な苗づくりでは二葉で20cmにもなります。一方、冬期湛水不耕起移植栽培の苗づくりは、有機肥料などを使用し、自然に生長するのを見守るように約50～60日間、ゆっくり時間をかけて育てます。

同じ20cmの苗でも、葉の数や茎の太さは歴然の違いです。一般的な苗は2.5枚の葉しかなく、茎も細々としています。冬期湛水不耕起移植栽培の苗は5.5枚の葉を持っていて、茎も太くしっかりとしています。葉の数が多いと、たくさん光合成をすることができ、茎が太くてしっかりしているのでよく育ちます。この農法の中では、「苗八作」と考え、苗づくりに最も重点を置いています。

※冬期湛水不耕起移植栽培

岩澤信夫氏が提唱し、普及させた稲作農法のひとつ。田んぼに冬でも水を溜め、耕さないことで、生き物豊かな田んぼになり、農薬や化学肥料に頼らない安全な米ができる。



- 茎が細い
- 2.5枚の葉
- 約30日間育てる
- 根が少ない

- 茎が太い
- 5.5枚の葉
- 約50～60日間育てる
- 根がたくさん出ている



一般的な苗と不耕起栽培の苗の違い